

第15回 日本社会福祉士学会 全国大会

支援の新たな道～ひと・まち・くらしを支える社会福祉士～

2007年6月1日、2日に開催される全国大会まで残す所あと半年余り、メインターマが決まりました。『支援の新たな道』ひと・まち・くらしを支える社会福祉士。改正介護保険法、障害者自立支援法、児童・高齢者虐待防止法等に見られる新しい福祉課題が渦巻く現代社会の中で、地域生活支援や権利擁護を軸としたソーシャルワーク機能の重要性が指摘されています。

その担い手として、社会福祉士への社会的期待が高まっている中で、三重大会は『社会福祉士学会全国大会』として開催される最初の全国大会となります。

「社会福祉士制度の見直し」や「ソーシャルワーク

大会テーマ決定!

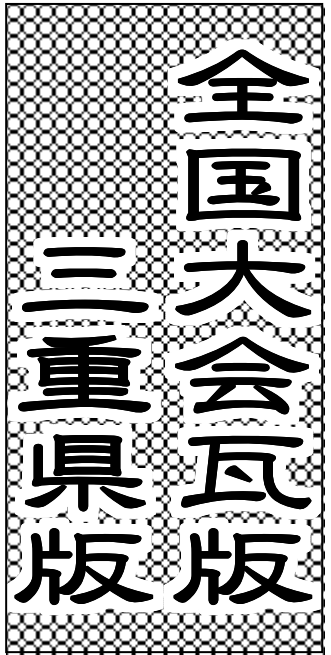
の新たな役割」が求められている中で、福祉人材として社会福祉士の専門性と実践力の向上の取り組みが必要とされています。

わが国の社会福祉は制度の枠の中で進められ、ソーシャルワークも制度改革の度に翻弄されてきた感があります。

ソーシャルワークとはそもそも何なのか、もう一度見つめ直し、制度がどう変わっても、われわれ社会福祉士はソーシャルワークを課業とする専門職として、ソーシャルワークのあり方を改めて考えることは重要なことではないでしょうか。

現在の社会福祉士をめぐる動向のキーワードとして「ひと」「ウェルビーイング」「かかわる」「かかわりあう」「みとめる」等が挙げられます。

こうした中で、三重大会全国大会実行委員での検討、本部常任理事会で検討を重ねた結果、今後の私たちの新たな方向性を示す本テーマに決定されました。明日の福祉が『みえ』る『三重』全国大会に、ぜひご期待下さい。



三重県社会福祉士会事務局
発行：広報委員会
〒514-0003
三重県津市桜橋2丁目131
三重県社会福祉協議会内
Tel 059-227-5145
Fax 059-227-6618

第2号



イメージキャラクター『パールちゃん』

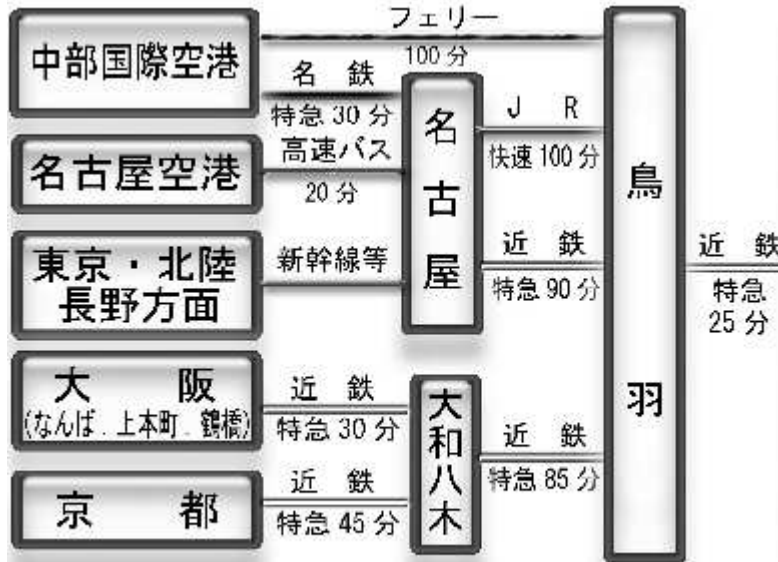
詳しくは、三重県社会福祉士会ホームページをご覧ください。

<http://www.5.famille.ne.jp/>

~mie-csw

大会テーマソングとPRビデオが見聞できます。今すぐアクセスを!!

三重全国大会が開催される志摩市へのアクセスとしては、近鉄電車の利用が大変便利です。JRでもお越しいはることは可能ですが、鳥羽駅で乗換えが必要となりますので、接続時間をご確認ください。



三重県情報 くみえちやうく

三重県

ちよつとちよつと

紀伊半島の東部に位置する三重県。古代から歴史に登場しますが、超有名になることが少なかったようです・・・

ちよつと地味な三重県のちよつと雑学を紹介しましょう。

その1 村家な三重県

構造改革で、市町村合併が各地で展開されている平成の大合併。

三重県でも16の新しい市や町が誕生しました。

この合併により三重県では『村』が消滅しました。

三重県には村がありません。

例えば三重県のホームページにある各市町村紹介のページは『三重県の市町』となっています。

現在、29の市町で構成されている三重県です。

三重のいいところ

みたいところ

その2 街道の巻

日本の幹線道路の代名詞『東海道』。現在の国道1号線にあたります。

東京日本橋から出発し、三重県の桑名・四日市・鈴鹿・亀山を経由して京都に向かいます。

旧東海道が通っていた宿場町の各地には当時の面影を残す所も数多く残っています。

東海道と分岐し、南に向かう街道が伊勢街道。ご想像通り伊勢神宮へ向かう参拝の道です。

江戸時代に大流行した伊勢詣。今も昔も変わらぬ伊勢への道は道路も鉄道も伊勢に向かうために古くから整備が進み発展してきた道です。

更に伊勢街道を分かれると熊野三山へ向かう熊野街道(古道)が伸びます。

急峻で高い山が連なる紀伊山地を通るため、勾配の激しい峠が幾つも続きます。

峠を越えと眼下には紺碧の海が広がります。青い海が見えた時、いしへの旅人はホッとしたに違いありません。

← 石薬師(石薬師寺)



いいもの

みいつけた

第2回 ローソク

三重県はローソクの生産量が日本一です。

みなさんもカメラマローソクという言葉は一度は耳にされた事があるのではないのでしょうか。

神仏用のローソクをはじめ、インテリアとしても楽しめるアートなキャンドル、香り付きのキャンドル

など多種多様なローソクが、三重県亀山市で数多く生産されています。

輸出全盛の頃は、品質において高い評価を受け、その名が世界的に知られました。

全国大会会場からほど近い、伊勢市のおかげ横丁にはキャンドル専門店があります。

お越しの際には、是非足を運んでみてください。一家に1つ、三重で作られたローソクを使ってくださいね。(もちろん何本でも！)

美味しいね

三重県②



赤福餅

赤福

三重と言えば伊勢神宮。江戸時代以降多くの旅人が伊勢にお参りに行きました。

東海道、伊勢街道、熊野街道と江戸時代の大動脈と、伊勢詣、熊野詣に繋がる道があった三重県。

その街道筋には餅を使ってお菓子をだす店が多くあり、今も昔と変わらぬ餅菓

子がたくさん味わうことができます。

伊勢周辺にも沢山の餅を使ったお菓子が残っています。

伊勢地方の餅菓子の最高峰は「赤福」。

赤福と言えば三重。三重と言えば赤福。全国的に名の知れたお菓子。

三重県人なら食べた事がない人はいないと言っても過言ではない美味しい一品です。

滑らかなこし餡に柔らかい餅の絶妙なハーモニー。

伊勢神宮の内宮前にある赤福本店で五十鈴川を眺めながら食するのが、通な食べ方です。

また夏季限定で、かき氷の「赤福氷」があります。特製の餡とお餅、抹茶蜜が奏でる三重奏。伊勢路の夏の風物詩となっています。

是非、三重にお越しの際は、作りたての赤福をご賞味下さい。



→カメラマローソク←



全国大会瓦版
三重県版第3号は、
2007年2月
発行予定です。
乞うご期待を！